



ふれあいの丘 天文館だより

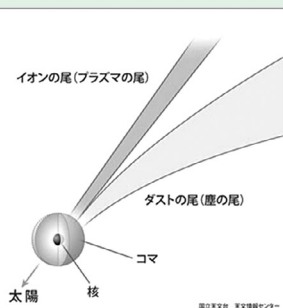
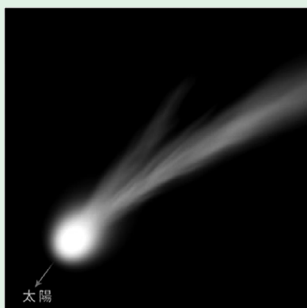


★長い尾を引いて夜空を動いていく彗星

今年は2つの彗星が太陽に接近し、肉眼で観察できるほどの明るさになると期待されています。1つは3月中旬～4月ごろに見られるパンスターズ彗星、もう1つは11月後半～12月に見られるアイソン彗星です。

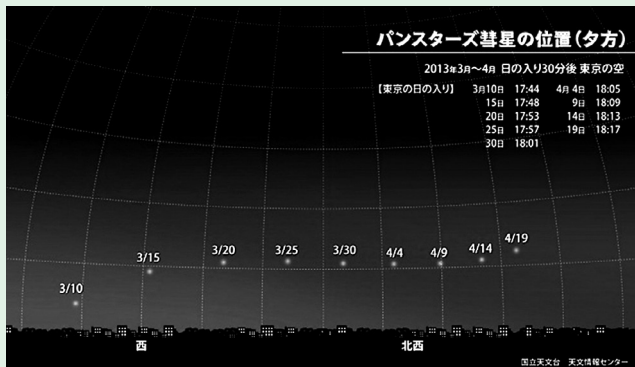
☆彗星(すいせい)とは

夜空にぼんやりと輝き、地球に近づくとほうきのような長い尾をひく彗星は、その姿からほうき星とも呼ばれます。彗星の主成分は、水(氷)で、表面に砂がついた汚れた雪だるまに例えられます。太陽に近づくとその熱で彗星本体(核)の表面が少しずつ溶けます。そのとき本体の氷が蒸発しガスと塵も一緒に表面から放出されます。その結果、彗星の本体がぼんやりとした淡い光に包まれるように輝いて見えます。これは「コマ」と呼ばれます。さらに、本体から放出されたガスと塵がほうきのように見える「尾」を作ります。



☆パンスターズ彗星の見られる時期

パンスターズ彗星は、3月10日に太陽に最も近づき、予想どおりに明るくなれば、3月中旬以降、日の入り後の西の空で見られそうです。また、3月下旬から4月上旬までは、日の入り後の西の空と日の出前の東の空で1日に2回見られそうです。ただ、彗星は、この期間はきわめて低空でしか見ることができません。彗星の明るさの予測は難しいのですが、西の空、または東の空で見通しのよい場所で観察してみましょう。



なお、パンスターズ彗星の詳細は、国立天文台のホームページ(<http://www.nao.ac.jp/>)をご覧ください。パンスターズ彗星観望会については、天文館ホームページまたは市広報2月15日号17ページをご覧ください。

■問い合わせ

ふれあいの丘天文館 TEL (28) 3254
<http://www.fureai-tenmonkan.jp/>

ふれあいの丘 自然観察館だより

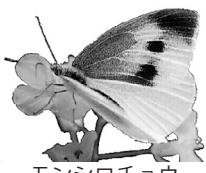
例年になく寒さが厳しかった冬も過ぎ、芽吹きの中春が巡ってきました。春は昆虫・植物にとって、躍動の季節です。今年も自然観察館では、「世界のチョウ・日本のチョウ」からスタートします。美しく、神秘的で多くの人々の心をとらえてきた「チョウの世界」をご覧ください。

○「世界のチョウ・日本のチョウ」

世界には約1万7800種(日本は約230種)のチョウが知られていますが、特に中南米や東南アジアは「チョウの宝庫」として、注目されてきました。その中から、私たちに最も身近な「モンシロチョウ」を最初に紹介します。

☆菜の花とともに「モンシロチョウ」

春が来るのをジッとサナギで待ち、菜の花の開花とともに飛び始めます。「モンシロチョウ」は白や黄色の花が咲く、日当たりのよい平地を好んで飛び回っています。何回か発生を繰り返し、3～11月頃まで見ることができます。



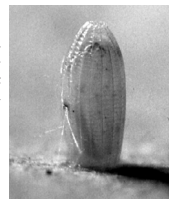
モンシロチョウ

☆昔は日本にいなかった・・・?

エサとなるキャベツなどアブラナ科の野菜が中国や朝鮮半島から渡ってきた時に、一緒にきたものと考えられています。現在では高冷地でキャベツなどが栽培されるようになって、高原でも見られるようになりました。

☆厳しい蝶の世界・・・?

1匹のメスは約300個のタマゴを産みますが、成虫になれるのは1%程度と言われています。幼虫時代は「青虫」として嫌われていますが、必死になって「命」をつないでいるのです。



タマゴ

●新展示品「化石発見」

「化石」の展示をしていましたが、園児や小学低学年には難しい内容でした。そこで、化石発見の過程を、ハンマーやブラシを使いゲーム感覚で体験できるような展示品を展示しました。約20種類の化石が2分の1の確率で出現し、「クジラ」の化石が出ると「特別賞」となります。小学生の皆さんもチャレンジしてください。



新展示品「化石発見」

■問い合わせ

ふれあいの丘自然観察館 TEL (28) 3131
<http://www.fureaino-oka.com/shizen/>